



# 血液・腫瘍内科

## 初期臨床研修

### 1. 1年次ローテーションの研修目標

1年次ローテーションでは、他の内科系診療科とともに、病棟での患者診療とケアの基本を修得することを目標とする。さらに、血液・腫瘍内科学における基本的な知識や処置の習得に努める。

- 診療チームの最前線で、ベッドサイドにおける患者診療とケアを担当できる基本的な素養や能力を身につける。
- 医の倫理・医療安全を理解し、実践できる。
- 退院サマリーを期限内にまとめるなど、診療・ケアに必要な基本的タスクに習熟する。
- 全科に共通する基本的な医療面談、身体診察に習熟する。
- 内科診断学に必要な基本診察（問診、理学所見の取り方など）を修得する。
- 一般検査、画像診断の選択と順序性を判断して、的確なオーダーができる。
- 一般検査における異常値や画像診断の異常所見に対し、適切な評価を行い、的確に次のステップが考えられるようになる。
- 緊急的な処置に際して、チームの一員として役割を果たすことができる。
- 採血、尿道バルーン挿入、血液培養採取などの基本的処置を習得する。
- 抗菌薬の種類・特性を学び、適切な抗菌薬の投与を行うことができる。
- 輸血関連検査を理解し、適切に輸血を行うことができる。
- サイトカイン製剤（G-CSF など）を適切に使用することができる。

### 2. 2年次ローテーションの研修目標

2年次ローテーションでは、幅広く内科診療を修得するとともに、血液・腫瘍内科の専門性あるいは関連診療科の専門性を見据えた診療技能を修得する。

- 輸液療法などの全身管理を適切に行うことができる。
- 血液内科学における基礎的検査（血液検査、鉄代謝、免疫学的検査、血漿蛋白検査、出血凝固系検査など）が理解できる。
- 骨髄穿刺、腰椎穿刺、中心静脈確保などの補助ができ、その技術を習得する。
- 細胞表面マーカーによる細胞診断や染色体・遺伝子学的診断法を習得する。
- 免疫組織染色を含む病理診断を学ぶ。
- 抗がん剤の種類・特性・副作用を学び、標準的な治療を行うことができる。
- 主な造血器腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）ならびに類縁疾患の病態を理解し、診断・治療を習得する。

2年目に血液内科とともにローテーションが推奨される診療科

- ✚ 他の内科系診療科
- ✚ ICU、救急部
- ✚ 放射線科（診断科・治療科）
- ✚ 検査部・感染制御部
- ✚ 病理部

## 後期研修

専門研修 1-2年目

主として病棟主治医として、以下の業務を行う。

研修中あるいは終了後、日本内科学会認定内科医取得が可能となる。

- 血液・腫瘍内科学における主要症候を理解し、診断できる。
- 標準的な化学療法の治療計画を立て、実践することができる。
- 中心静脈確保を行い、適切な全身管理を行うことができる。
- 腰椎穿刺を行い、髄液所見を理解できる。
- 骨髄穿刺・生検を行い、骨髄細胞の採取ができる。
- 造血因子、蛋白同化ホルモン、免疫抑制剤などを用いた薬物療法を習得し、実践できる。
- 造血幹細胞移植の基礎を理解し、担当医として診療を行うことができる。
- 血液疾患における感染症の特殊性を理解し、治療・管理ができる。
- 貧血、免疫不全症、出血血栓性疾患の病態を理解し、診断・治療ができる。

専門研修 3-4年目

病棟医および外来担当医として、以下の業務を行う。

研修中あるいは終了後、日本血液学会専門医取得が可能となる。

- 他科からの血液・腫瘍内科のコンサルトに対応できる。
- 外来担当医として、新患の初期診察、退院患者のフォローができる。
- 骨髄像を観察し、病气診断を一通り行うことができる。
- 抗がん剤の特性を理解し、個々の症例に沿った化学療法の計画を立てることができる。
- 外来化学療法部にて臨床腫瘍学を修得し、治療に参加することができる。
- 造血幹細胞移植の主治医として、医療スタッフの中心となって、移植診療を行うことができる。